

祝みづる五週年

みづるの親友

私は本紙に對して、少しく希望を陳べて見やう。紀念號に於て
大下先生の講話中「用紙が贅澤だ」に對して否認せられたのは最
も喜ぶべき事だ、又、定價、製本、繪畫等の改正も私は賛成で
ある。なるべく、寫眞版を多く挿入してもらひたい。又、地方
研究者で拜見出來ぬは諸先生の御肖像なり、今後、每號二人か
三人づゝ、此寫眞を入れてほしいし、御當人の最初繪畫に志し
た御話や、御經驗談等、又、初學者に對して御注意などの講話
を記したなら、我々初學者には、以つての外の參考になるので
ある、又、一般の記事でも、ラスキンの山岳論のやうな高尚なも
のよりは、キレイナ畫キタナイ畫等の記事はよいし、また大い
に得るところがある、山岳論の類は、我々にはとてもだめだ、
あゝというのは、中等の技術者にならなければ、とても不可解で
あらうと思ふ、それよりも、繪の具のませ方、筆の用法、郊
外寫生に附いての注意等との記事を載せていただきたい、又春
秋二回特別號を出して、其季の寫生に附いて面白い御話を載せ
てもらいたい、我等は、滿空の熱情を以て本誌に望むのである。

語るも愚

岡村生

光陰矢の如く、思ひ出しても懐しい小學時代は早三年の昔とな
りました。中學へ入り、初の學期試験に首席を占し甲斐もなく、
天の爲す業とは云へ、戀しき友の樂しく過す夏季休暇の半の頃

はうらめしくも主持つ身と化したのであるが、燃るが如き眞夏
の日の、それにも勝る我畫熱は、遂に腦を煩ひて兩親の許へ歸
る事となつた、其秋、兩親の許さぬ道とは言へ、己が天性をた
のみに無理にも出京せしも、慈母の老と妹の病は、遂に身に纏
ふ可き錦あらしめなかつた。歸國後は多忙と重き責任とにおそ
はれ、一時は我嗜好も萎れざるを得なかつたけれ共、慰安のなき
身の無味を感じ、多からぬ貯ひの内より、昨年五月より新に『み
づる』の讀者となり、身の境をも顧ず講習會にも出席し、親し
く大下先生の教を受た。爾後奮起心は一時に高まり、日曜も祭
日も無き繁忙の我身は、晝休みの寸閑を利用して、母の己が身
の健康を憂ふをも顧す、一意専心勉學の賜とも云ふ可きか、自
己丈乍らも稍満足の出來る物を描き得る様なつた。

過る日、昨年の講習會の主催者長谷川氏より、展覽會の開催と
出品勧誘の音信に接した時は、實に手の舞ひ足の踏む所を知ら
なかつた、己惚心の矢も楯もなく、早速十數枚送附した、嗚呼
今より開會の目が待ち遠しい、深き印象を受け大なる利益を得
る事と確信して止まない。
噫、斯て我身は如何に爲り行くのであろう？不幸薄命の可憐兒
を如何に弄するのであらう、人は蚊帳の中に鼾の聲漸く高まる
頃、人目を忍ぶ悲しき燈火の下にて、睡氣にせめられ蚊と戦ひ
つゝ記す。

岡村君よ、我身は如何に爲り行くのかと問はずに吾身を如何
に爲さねばならぬと積極的の奮發を爲たまへ(編者)